



Dr.田名の産業医だより2011年5月



東日本大震災



産業医 田名 毅 (首里城下町クリニック)

被災地避難所

医療救護班に参加して

4/23日から30日まで、沖縄県医師会が派遣している岩手県大槌町避難所における医療救護班に参加してきました。今回は産業保健からは少し内容が離れますが、この件についてお話し致します。

1. 経過

3/11の震災後、沖縄県医師会は被災地の医療救護にあたることを目的に医療班の派遣を決定しました。日本医師会、岩手県医師会、そして岩手医大と相談し大槌町の避難所における医療救護にあたることになりました。第一陣は3/15に沖縄県を出発し、東京にて調達したレンタカーにて東北自動車道を北上し、3/16に大槌町城山中央公民館に到着、3/17から公民館内において沖縄県医師会医療救護班として仮設診療所を開始しました。医師2名、看護師2名、事務1名の計5人で班編成し、1週間交代で現在も継続しています。私は第9陣として参加しました。

2. 被災地の様子

我々の班は東京経由で岩手花巻空港に空路入り、タクシーにて釜石経由で2時間半かけて大槌町に入りました。釜石の商店街から津波による被害が目に入ってきました。

元々山と海に挟まれたわずかな平地にある町を、今回の津波が襲っていました。爆弾でも投下された後のような「がれき」(本来はがれきではなく、住居や日常生活用品です)の山が広がっていました。城山中央公民館は海岸線に面した小高い丘の上にあり、岩盤が固い場所にあったため建物には大きな損傷はなく、震災直後から多くの住民が避難してきて



いました。現在も310名あまりの避難者が生活しており、大槌町の中でも最も人数が多い避難所になっていました。

3. 避難所の様子

中央公民館の、体育館・武道場・ホールの3か所に分かれて、家庭ごとわずかなスペースで生活されていました。避難所によってはプライバシーが確保できるような仕切りのあるところもありましたが、ここでは「仕切りをすると他人行儀になるので好まない」という意見が多く聞かれ、避難所には仕切り用の段ボールが届いていましたが使用はごくわずかでした。



炊き出しはボランティアの方々が不定期でくるくらいで、温かい食事が十分にあるわけではありませんでした。朝食として役場より配給されるわずかなおにぎりやパンでは、特に高齢者の方々は「食欲が落ちてしまう、喉に通らない」という現実もありました。

4. 救護班の活動

沖縄県医師会から派遣されている医師は各陣ごとに2名、他に琉大医学部卒業で読谷村出身のオーストラリアで家庭医を目指している山内医師(1カ月滞在)、地元の開業医の道又医師の計4名で診療を行っていました。食事・睡眠といったわれわれの生活のすべてを、診療と同じ空間で行い、避難所には電気、水道は通っていましたがシャワーなど入浴できない状況でした。最近から、避難者の方は1週間に1回自衛隊の仮設銭湯に入りに行っていました。診療所を訪れる1日の患者さんは80~90名で避難所内外を含む高血圧の継続処方やかぜなどが中心でした。また、避難所内の回診、蓋石市医療班災害対策会議への参加、急患の対応としては離れた蓋石市や宮古市の県立病院への搬送などが主な業務でした。私が現地入りした時期はすでに震災から40日以上経過しており、急性期の対応というよりは長期化した避難所生活における健康面のケアでした。具体的には、配布される食事内容の改善に関することや伝染性感染症の発生予防と備えなどの提言です。また、宮崎市の保健師の方々と一緒に避難所で感染予防対策と心のケアに関してミニ健康講話を行いました。



医師会として、重要な検討事項に上がっていたのが「いつまで派遣するか」という点です。診療がストップしていた地元の医療機関がGWの前後で再開はじめており、できるだけ地元の医療機関に患者さんに戻していきながら、撤退するタイミングについて皆で意見交換していました。



5. 今後医療面で重要になってくること

やはり心のケアです。避難所にいる方々は大切な家族、友人、同僚を震災で失っています。今はボランティア、医療班、自衛隊などが関わり、避難所の生活も寂しさを紛らわす面もあります。今後、順番に仮設住宅への移動がはじまりますが、この避難所にいる方々がすべて入居できるのは早くても7月までかかるだろうとのことでした。長期になって一人きりになった方々の心の支えの支援体制をどのように構築していくかということが重要な課題であり、保健師などによる心のケア、精神科医や臨床心理士による心のケアが益々重要になってくるであろうと感じました。現在、この避難所は神奈川県からの心のケアチームが対応しています。

6. 私の感想

震災後「被災地において医療面で何かしたい」と考えずっと悩んでいました。1カ月以上が経過し、慢性疾患の管理、心のケアなどが重要になっているだろうと予測し、日頃の診療が活かせるのではと思い参加しました。滞在した1週間の活動には自分なりに納得はしています。派遣前から滞在中においても「もし強い余震が起きたら」などの不安があったのも事実です。実際に、強くはありませんでしたが体感する余震が2回ありました。海岸から近いのか遠くから「ドドドツ」と地響きを感じた後に揺れ始めました。幸い危険な思いはしませんでした。被災地に入るといことは万が一危険なこともありうるということを現地でも感じました。

今後これ以上の被害が起こらないことを祈りながら、大槌町をはじめ東北の各被災地が復興していくことを切に願っています。

第100回 首里城下町クリニック『地域むけ医療講演会』

日時：5月31日(火)19:00～

テーマ： **リウマチ科診療** ～ふしぶしの痛みから関節リウマチの新しい話題まで～

～患者の苦痛と家族の苦悩、共に支え、共に学ぶこと～

講師：首里城下町クリニック 医師 比嘉 啓 先生

どなたでもお聞きになれます。

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、

あなたの **相談窓口** です！

相談窓口

産業医は、あなたの職場と職場で働く方々の心とからだの健康を支援します。

★産業医・保健師による事業所訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では保健師による健康相談を行っています。どなたでもどうぞ！事業所訪問などで不在の事もありますので、お電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。

事前にお電話くださり働く人健康支援室で“産業医との面談”とお話ください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅



保健師・産業カウンセラー
認定産業看護師 田名彩子



保健師
又吉雅代



認定産業看護師
山城愛子

連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000
携帯 070-5814-0065 (由名彩子)
メール saiko@biscult.ocn.ne.jp

プライバシーは守ります。
お気軽にご利用下さい！

